

【平成 27 年度・ミクロ経済学 I・課題 1】

☆ 締め切り：平成 25 年 5 月 12 日講義開始時

☆ 表紙には指定のページを使ってください。

【問1】 次の直線の方程式(一次方程式)をグラフに書きなさい。グラフ上にどの方程式のグラフか判るように示すこと。(独立変数には、X もしくは R を選ぶこと。また、各座標軸の変数を定めること。)

- A) $Y = 3X + 9$
- B) $X = -Y + 8$
- C) $Y = -2X + 5$
- D) $4Q = R + 8$
- E) $5(R - 6) = 3Q$
- F) $12R = 2 - 0.5Q$

【問2】 次の (1)、(2) の連立一次方程式を解き、解を表すグラフを問いごとに描きなさい。

(1)	(2)
$\begin{cases} Y = 18 - 3X \\ Y = 1 + 2X \end{cases}$	$\begin{cases} 3X + 2Y = 5 \\ X - 2Y = 7 \end{cases}$

【問3】 次の経済学に関する基本用語や考え方を説明しなさい。説明するために必要であれば図や数値例を挙げて説明してもよい。

- (1) 希少資源 (2) トレード・オフ (3) 機会費用 (5) 実証経済学と規範経済学
(6) 限界量と限界法則

【問4】 次の計算を行いなさい。

- A) 水が水道の蛇口から毎分 2 リットルで出ている。最初にバケツに 14 リットルが入っており、そこに 6 分間水を注いだとする。6 分後の水量と最初の水量の間で何パーセント増加したか求めなさい。
- B) $\frac{\left(\frac{5}{12}\right)}{\left(\frac{8}{10}\right)}$ を簡単にしなさい。
- C) $4 : 5 = 15 : x$ であるとき x の値を求めなさい。

【問 5】 つぎの表は、あるイチゴ農家が収穫のためにアルバイトを雇ってイチゴ摘みを行った場合の収穫量と人数の関係です。これについて、設問に答えなさい。

(1) 表を完成させなさい。(※) については、(3) の賃金で埋めること。

人数	総収穫量 (パック)	平均 収穫量	限界 収穫量	総費用(※) (現物支給)	平均(※) 費用	限界(※) 費用	それぞれの人を雇 い手元に残る イチゴの量
0	0	-	-	-	-	-	
1	200	200	200				120
2	380	190					
3	530	176.67	150				
4	630	157.5					20
5	710	142					0
6	760	126.67	50				

(2) 限界量とはどのような量をさすか言葉で説明しなさい。

(3) 今、この農家がアルバイト 1 人につき、80 パックのイチゴを賃金として現物支給する場合、この農家は何人まで雇い入れたらよいか？

(ア) 限界法則を言葉で説明しなさい。

(イ) 何人まで雇い入れるか？

(ウ) (イ) の人数を雇ったとき、賃金を支払った後農家の全部で何パック手元に残るか示しなさい。